

きゆうまつくら け じゆうたく
旧松倉家住宅

- | | |
|----------|---|
| 1 種 別 | 有形文化財（建造物） |
| 2 名称及び員数 | 旧松倉家住宅 3棟 |
| 3 構造及び形式 | 主 屋 木造一部二階建、切妻造一部寄棟造、亜鉛鉄板葺、妻入
米 蔵 土蔵造一部二階建、切妻造、土居塗、平入
文 庫 蔵 土蔵造二階建、切妻造、土居塗、妻入 |
| 4 建築年代 | 明治39年（主屋）、天保10年（米蔵）、慶応2年（文庫蔵） |
| 5 所在地 | 秋田市旭南二丁目7番29号 |
| 6 所有者 | 秋田市 |
| 7 説 明 | |

松倉家は、寛延2年（1749）頃に始まる商家で、当初、油屋を営んでいたが、明治18年（1885）頃に田を購入して地主となった。住宅のうち主屋は、明治37年（1904）の大火で類焼し、明治39年（1906）に再建された。

主屋は妻入の大型町家で、片土間二列型の間取りに鍵型に張り出した上座敷が付く。表側にコミセの名残である前土間に^{ひさし}庇をつけ、続いて引き大戸の奥に通り土間を蔵前まで通す。通り土間に面して店座敷、中の間、オエを並べ、その背後に下座敷と二部屋を配置して、最奥に台所を置く。

米蔵と文庫蔵は土間を挟んで、主屋の背後に並ぶ。両蔵の規模はほぼ同じであり、棟札によれば米蔵が天保10年（1839）6月18日、文庫蔵は慶応2年（1866）7月の上棟である。土蔵2棟とその周囲の土間には、主屋に接続する覆屋をかける。

主屋は、正面外観及び片土間二列型間取りのよく整った配置となっており、江戸時代後期以来の久保田外町の伝統的町家の特徴を継承している。また、県内に現存する伝統的町家の中では大型で改変が少なく保存状態がよい。江戸時代末期の土蔵2棟は、建築年代が明らかであり、他の土蔵建築の年代を比定する指標となる。

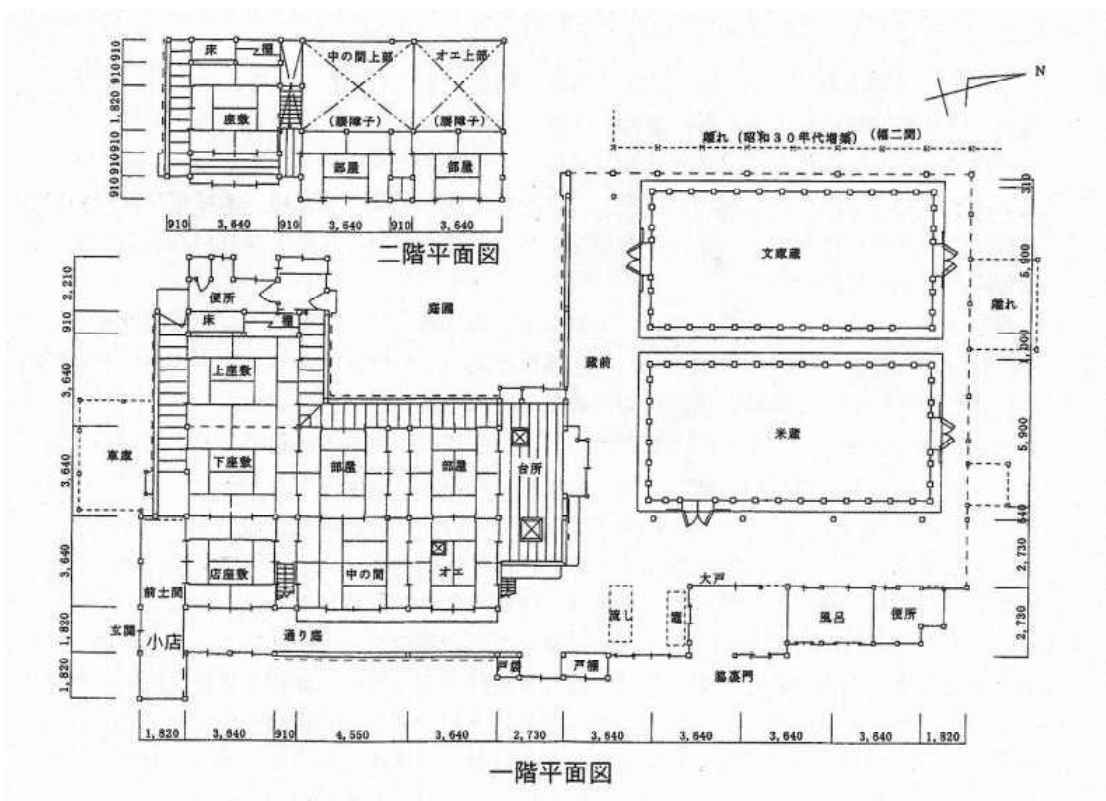
参 考

秋田市指定有形文化財（建造物） 旧松倉家住宅 平成3年（1991）7月18日

参考文献

秋田県教育委員会 『秋田県の近代和風建築－秋田県近代和風建築総合調査報告書－』 秋田県文化財調査報告書第382集 45-47頁 平成16年（2004）3月

五十嵐典彦 『あきたの町並みと町屋－歴史空間の継承に－』 秋田文化出版 90-92頁 平成25年（2013）8月10日



名称	1階床面積	2階床面積	1階桁行	1階梁間	2階桁行	2階梁間
主屋	217.94㎡	81.98㎡	17.29m	10.2m	13.65m	6.37m
米蔵	63.96㎡	8.79㎡	10.66m	6.0m		
文庫蔵	50.11㎡	48.49㎡	10.73m	4.67m		
覆屋	308.25㎡		16.07m	19.44m		